

授業改善等に関する報告書（2021 年後期）

授業アンケートへのフィードバック

平成 28 年度より、学内で使用されている LMS (Lerning Management System) manaba 上で学生が回答した授業アンケート内容に対し、教員がコメントする形式を採っている。

次ページ以下に、それらの「授業アンケートへのフィードバック」をまとめて掲載し、授業改善等に関する報告とする。

[2021（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
グローバル社会	倉持 一	回答数が5名ですので、履修者全体の評価ということではありませんが、理解度や満足度が高く、初めて担当した科目としては高いレベルで授業目的を達成できたのではないかと考えています。 グローバル社会は私達に便利さや快適さをもたらす良い面として受け止められがちですが、SDGsに代表される社会課題の多くは、グローバル社会によって生じていることも事実です。 この理解を深めてもらうことを主眼としましたので、履修者の皆さんの今後の学習にも応用してもらえればと思います。
環境マーケティング論演習 b	倉持 一	回答数が1名ですので詳細な回答は控えますが、この科目は企業の実践的な取り組みをベースに、演習形式で社会課題解決型ビジネスモデルを構築しプレゼンする高度な内容でしたので、履修者の努力が光りました。
プロジェクト基礎演習 b	須賀 由紀子, 合原 勝之	この授業での「デザインすること」の基礎力を、次につなげていただけるとよいなと思っています。上学年の「プロジェクト実践演習a」「プロジェクト実践演習b」で、この授業で学んだことが積みあがっていくと思いますので、楽しみにしていただければと思います。
女性社会論 b	須賀 由紀子, 倉持 一	回答数が少ないので全体の評価として受け止めるには強引かもしれませんが、理解度、満足度ともに高い数値だと理解しています。 2名の教員の共担科目ですが、男性教員と女性教員のそれぞれの立場や専門性から女性社会について説明し、皆さんに考えてもらうことで、より幅広い視点で捉えることができたのではないのでしょうか。
メディアプロデュース論演習	行実 洋一	学生からのコメントがありませんでしたので、こちらからも特にありません。
社会責任論	倉持 一	企業の社会的責任を歴史的に、かつ、学術的に学ぶ機会は、意外なほどに多くありません。 そうした中で、企業が社会的責任をどのように受け止め、また、どのように対応していけばよいのかは、現代企業に課せられた重要なテーマです。 難しい内容ではありましたが、履修者の皆さんの努力もあって、概ね授業の目的は達したものと考えています。
ゼミナール	行実 洋一	学生からのコメントがありませんでしたので、こちらからも特にありません。
環境思想演習	犬塚 潤一郎	次の段階へ進むための準備を得られたことと思います。
現代社会を読み解く c (文化と市場)	河井 延晃	本授業は1年次以上が履修可能な講義科目として開講しました。 授業アンケートでは「15. 総合的な授業満足度」について、4.19 (全体平均4.34) と、平均的な値でしたが、各項目のうち低い値の項目を中心に授業改善について報告します。 総合的な満足度に対し、むしろ低い項目としては「9. 板書や配布資料のわかりやすさ3.73 (4.33)」と「14. 授業の自己評価 (3.81) 3.83」が低い評価となっています。 まず、前者については、この授業ではテキストと合わせて、白書や専門的な論文の共有、紹介も行っています。これらは100%理解する必要がないものもありますが、配布参照時に、「応用、チャレンジ、アドバンス」などとして、紹介しておく必要があったのではないかと思います。どうしても、テキストだけでは最新の現象などを説明しきれていない部分もあるので、補足資料を配布したものの、それらの資料の位置づけを明確にするということです。 後者の自己評価についても、本件と関連するかもしれませんが。特に専門的な配布資料の消化率を考えると、自己評価が下がったという可能性があります。これについても、テキストとそのほかの資料の位置づけを明確にしておくことが重要であると考えます。 また、本授業では文化と市場という観点から、著作権制度やNFTなどのブロックチェーン技術などにも触れました。これは今年の授業で抗議した内容ですが、初年次の授業としてはやや難しい内容であったかもしれません。これら、総合的な判断を行い、あまり詰め込まない内容とすることも重要であったと考えます。
メディア経営論演習	犬塚 潤一郎	テキストの予習にムラがあったことは残念ですが、準備されていた際は十分な手ごたえが得られたことと思います。
ゼミナール	犬塚 潤一郎	次期から卒業研究になりますが、前期は研究方法論の精緻化に取り組んでください。

[2021（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
メディアコミュニケーションb	河井 延晃	<p>本授業は2年次以上の講義科目として開講していました。授業評価については「15. この授業の総合的満足度」が4.29（全体平均4.34）となっており、平均的な総合評価となっていました。そのほかの項目で低い項目について、分析と改善案をいかに考察してみたいと思います。</p> <p>授業の内容と方法について（5-10の項目）のうち、相対的に低い項目は「板書やパワーポイント資料のわかりやすさ（4.29（全体平均4.33）」、「担当教員の言葉の聞き取りやすさ（4.14（全体平均4.33）」）となっています。平均と比較すると大きく差があるわけではないですが、本授業では新テキスト（Webマーケティング検定）を使用して、レジュメとそのほかの配布資料で授業が構成されていました。特に序盤から中盤にかけて、レジュメを見ながらテキストを参照するやり方を進めていたのですが、後半はテキストを中心にレジュメを補足的解説と切り替えました。この点、試行錯誤だったこともあり混乱もあったかもしれませんが。教員の声の評価についても、極端に低いスコアではないですが、履修者数に対して教室のサイズがやや大きく、後方の座席に座っている方にはやや聞き取りづらかったかもしれません。少し座席範囲を限定するなどして、対面授業の良さをだすことができるような授業運営は可能だと思います。</p> <p>また、「14. 授業での自己評価3.43（全体平均3.83）」については、低い値となっていました。レポート課題などの総評などを、アンケート前に行っておくことで、学生の自己評価（自身）を挙げることは可能だったと考えます。資格系テキストということもあり、やや欲張った内容の授業だったことでもあります。学生の自信につながる授業運営とすることが時期の目標であるように思います。</p>
家庭経営c（育児・介護）	蟹江 教子, 細江 容子	<p>育児は蟹江先生が、介護は細江が担当した。1年生対象講義なので、まずは大学の100分授業に慣れてもらい、楽しんで受講できるように配慮しながら講義を設計した。</p> <p>育児は、昨今の幼児教育の観点からの講義で、グループワーク等用いて臨場感ある講義を行い評価を得た。</p> <p>これを入口に、細江担当の介護の部分では、人生100年時代の高齢者の新たなイメージの提示や今日の介護場面における多様な課題について。グループワークなどをしながら、課題に向き合う講義で評価を得た。</p>
プロジェクト実践演習b	須賀 由紀子, 合原 勝之	<p>今期はコロナ感染症拡大のため制作課題完成に至ることができませんでしたが、最終課題を通して、授業での学びは十分修得していただいた様子がよくわかりました。授業で学んだことをもとに、制作者の立場にたつてものごとを捉える姿勢を持ち続けていただければと思います。</p>
生活産業史	倉持 一	<p>全体的に高い評価を得たと考えています。衣食住流通の4分野の生活産業に関して、伝統的な課題と新たな課題の両方を取り上げ、皆さんにその変化の重要性や企業が対応することの困難さを理解してもらった構成としました。その狙いは概ね達成できたと思います。ゲストスピーカーを招聘しながら、理解の深化に努めたいと思います。</p>
プロジェクト基礎演習c	須賀 由紀子	<p>日野市から現実的な課題をいただき、自分たちで課題の設定をし直していきながら、課題解決に向けての方策を、限られた時間の中でまとめあげ、どのチームも素晴らしい発表だったと思います。日野市の職員の皆さんも、最終発表にとっても感心しておられました。ぜひ、授業で得たことを、それぞれのご興味の中で、活かしていただけるとよいなと思います。</p>
地域文化形成論	須賀 由紀子	<p>地域の文化をいかに作り、未来にまちをつなぐか、その根本のところにある考え方を、様々な具体例を通して学んでいただけたように思います。ぜひ、みなさんの身近な地域の持続可能なまちづくりや、ご自身のこれからの生き方に、今回の授業での学びを活かしていただければ幸いです。</p>
プロジェクト基礎演習a	菅野 元行	<p>履修生14名中2名の回答に留まり（回答率14%）、総合的な満足度が4.00（5.00が最高点）となりました。対面で授業が多く実施でき、昨年度よりも大幅に授業内容を工夫し充実できましたが、回答率（昨年度15%）、総合的な満足度（昨年度4.00）とも変わらなかったことは少し残念に思います。</p> <p>回答していただいた方々と、自由記述欄に記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「ポスター制作などを通して、見やすい資料の作り方を学びました。」</p> <p>今後も意欲ある履修生の力を伸ばすことを心がけます。</p>

[2021（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
ゼミナール	河井 延晃	<p>本授業は、3年生のゼミ科目でした。アンケート評価としては、すべての項目で全体平均を超えており、高い評価となっていました。</p> <p>そのうえで、授業の改善やアンケートの考察を行いたいと思います。まず、授業評価の高くなった理由としては、レポート課題の予習復習時間も高く、欠席回数も低いため、「学生の課題制作態度」や「努力」に支えられていたことが推測されます。この点で、ゼミでは教員だけの一方通行の授業ではなく、学生の能動性にも支えられた部分が、授業評価につながっているといえます。</p> <p>その一方で、当初予定した合宿所での発表会など、コロナ禍でなかなか思い通りに行かない部分もありましたが、今後も対面授業を重視しながらも、グループウェアなどを積極的に取り入れて進めてゆきたいと思います。</p> <p>3年生については、ゼミでも伝えているように就活のサポートなども進めているため、キャリアセンターとあわせて有効に活用してください。</p>
企業研究 a	倉持 一	<p>必修科目ですので、企業経営に関心の薄い履修者もいたと思います。本学科は経営学部ではありませんので、専門的な知識までは必要ないと思いますが、自身のキャリア開発を行う上で、企業研究を「強さ」と「優しさ」の双方から行うことの重要性は理解する必要があります。そうした狙いが皆さんに少しでも伝わり、今後のキャリア開発に役立ててもらえればと思います。</p>
ビジネスプランニング	河井 延晃	<p>本授業は1年次の必須科目として開講しました。本年度から、学生のPC所持を前提として、全員がプレゼンテーションで最後に報告を行いました。総合的な授業満足度は4.05（4.34）となっており、本報告では特に改善すべき点として、ポイントの低い項目に着目して改善案をまとめることとします。</p> <p>「9. 板書やパワーポイントのわかりやすさ（3.84（全体平均4.33）」と、「14. 成績の自己評価3.77（3.83）」が相対的に低い項目になります。前者については、授業の中盤はグループワーク、後半は毎週、学生の発表、プレゼンテーションとなっていたため、本項目は評価自体やりにくかったと思います。アンケートに際してはこの点を十分留意して教員からアナウンスする必要もあったと考えます。</p> <p>後者については、全員の発表が終わった段階（学生間の相互評価投票）でのアンケートであったため、よいプレゼンテーションをみて、自分のプレゼンテーションに自信が持てなかった場合（あるいは逆も）も想定されます。この授業では大学の環境で持ち込みPCを使って、全員発表をおこなうことが目的でしたが、「今後の発表に生かすように」エンカレッジするなどが必要で会ったかもしれません。</p> <p>純粋な座学授業ではないうえに、持ち込みPCでの作業やグループワークなどもあり、アンケート項目では判断できない部分もあるかと思いますが、相互インタラクティブの度合いを高めることは重要であると考えます。</p>
コミュニティ概論	須賀 由紀子	<p>今日の地域づくりのあり方やテーマコミュニティのことなど、興味をもって修得していただけたようでよかったです。これからのまちの未来を創っていくのは、皆さん方若い世代の力が大きいと思います。引き続き学んでいきましょう。</p>
統計とモデリング	犬塚 潤一郎	<p>技術が自分の可能性を開き、自由を増すことにつながる、その実感を得る機会としていただいたことをうれしく思います。情報技術は、それがどんなものであるのか、イメージをつかむことができればあとはほぼ自習で進めることができます。技術取得にありがちな単純繰り返しの辛抱ではなく、楽しみながら自由を得られますように。</p>
地域エネルギー論	菅野 元行	<p>履修生30名中9名の回答（回答率30%）、総合的な満足度が4.67（5.00が最高点）となりました。大部分の授業を教室で実施でき、昨年度よりも授業内容、資料ともに工夫し充実できましたが、総合的な満足度（昨年度4.83）は微減しました。一方、回答率は昨年度（15%）よりも倍増しました。</p> <p>回答していただいた方々と、自由記述欄に記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「地域エネルギーについて理解が深まりました。」「再生能源に関する地域の様々な取り組みを知ることができました。」「様々な発電やエネルギーに関する理解が深まった。」「地域エネルギーとして、日本の現状や取り組みについて学ぶことができました。」「分かりやすい資料や説明、そして質問への回答を丁寧にして下さりました。ありがとうございました。」「</p> <p>今後も分かりやすい授業を心がけます。</p>

[2021（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
基礎メディア技術	河井 延晃	<p>本科目は、基礎メディア技術という観点から、初年次教育として必要な知識とあわせて、ITパスポート相当の資格知識の習得も想定した授業科目でした。</p> <p>授業評価に関しては平均的ですが、あえて低い項目を挙げると、「授業スピード（4.14（全体平均4.42））」、「双方向授業のしやすさ（3.85）平均4.32」などが挙げられます。</p> <p>この理由と改善について考察してみます。授業テキストも含めて、情報量がおおいため、手を動かす時間が結果として少なくなりがちだったかもしれません。その結果、速度や双方向性が低下したことは事実です。</p> <p>改善点としては、授業内外とわず作業課題を課して、振り返りなどの時間を授業中に1,2週もうけてみるのが考えられます。一方で、テキストの消化率は8割程度に抑えても、授業内に学生のアクティビティを組み込むことで改善が可能となると考えます。さらに一案としては、反転学習を組み込むことも一案かと思えます。</p>
プロジェクト基礎演習 d	行実 洋一	<p>全体的に高い評価を得られたが、学生がより成長を実感できるような工夫をより一層心がけたい。</p>
メディアアート論 b	犬塚 潤一郎	<p>この分野で特に重視される、視点・観点の多様・複雑化について、楽しんでもらえたと思えます。各回のレポート内容からすれば、理解を進めるための自主的な努力をもう少し期待したいと思えます。</p>
現代生活学	犬塚 潤一郎	<p>毎回の課題に対応することは大変だったと思えます。こちらも、毎回数多くを読みました。その過程で、皆さんの成長、思索の深まりを実感できました。社会は単純ではなく、多層多面的であること、向かうための総合学的な視点・方法について、見通しを得られたことと思えます。（話題間の関連付けもほしい、というコメントが1件ありましたが、一つにまとめることで単純化するような思考ではなく、異なるものを異なるままに、総体的に取り扱う認識の力を自身のうちに育てていただきたいと考えています）</p>
ゼミナール	倉持 一	<p>回答者がいないため割愛します。</p>
広告とメディア	行実 洋一	<p>全体的に高い評価を得られたので、引き続きより一層、興味ある授業を展開していきたい。</p>
Integrated English a	中山 誠一	<p>授業方法について、個人のペースで課題を進めることができる現在の方法（オンデマンド型）に多くの方から肯定的な意見をいただいた。その一方で、「課題の説明をもう少し丁寧にしてほしい」、あるいは、「質問がしづらい」など、改善点もご指摘いただいた。今後はこうしたご意見を参考に工夫をしながら、よりわかりやすい授業を目指したい。</p>
Webテクノロジー演習	河井 延晃	<p>本科目は、2年次以降の専門科目となり実習科目として開講されてきました。</p> <p>本科目の評価については「全体について」の項目は、「自身の成長4.50（全体平均4.25）」、「専門的に学びたいと思うか4.00（全体平均3.97）」、「総合満足度4.50（4.34）」と平均以上の評価となっていました。</p> <p>一方で、授業スピード（3.50（全体4.42））やシラパスの内容との一致（4.0（4.51））などが相対的に低いスコアとなっています。</p> <p>これについて、本授業はWeb技術に関する実習科目であり、教科書の内容を踏まえた制作課題がありました。この評価を改善するには、速度をゆっくり進めることも重要ですが、テキストの予習などを積極的に課すことで、授業時間の導入となるようながれを作ることができるかと思えます。</p> <p>なお、シラパスについてはテキストを含めてそのまま変更はありませんが、初回のオリエンテーションだけでなく、逐次授業中でも確認することで改善できると考えます。</p> <p>また、プログラミングやコーディングの授業や経験自体がほとんどないため、制作に入るまでにタイピングなどの習熟も今年は必要だったかもしれません。特に、単なるタイピングミスでウェブサイトが表示されないことは多かったと思いますが、自分で解決できるようにするのが理想かもしれません。</p> <p>一方で、慣れない実習科目であったことから、最初に挙げた「全体について」の評価が高くなったことも想定されますが、文理問わず間口の広い科目として改善してゆくことが重要かと思えます。そのための授業テキストの予習を今後は徹底することとします。</p>
ゼミナール	菅野 元行	<p>回答者がいなかったためコメントもありません。</p>
環境化学演習	菅野 元行	<p>回答者がいなかったためコメントもありません。</p>

[2021（後期）現代生活学科] 授業アンケート結果へのフィードバック

コース名	教員名	教員からのコメント
現代社会を読み解く d (科学技術と社会)	菅野 元行	<p>履修生36名中16名の回答となり（回答率44%）、総合的な満足度は4.75（5.00が最高点）となりました。初回以外の授業は教室で実施でき、昨年度よりも授業内容、資料ともに工夫し充実できた結果、回答率（昨年度44%）、総合的な満足度（昨年度4.75）ともに昨年度と全く同じ高い値になりました。</p> <p>回答していただいた方々と、自由記述欄に記載していただいた方々に御礼申し上げます。その一部を掲載します。「前期よりも環境分野に興味を持つようになった。資源に対する日本と国際関係についても考えるようになった。」「自分が生活している上での環境のことや、暮らしと持続可能なものをより深く学ぶことができた。」「身近にあるのに知らなかったことの多さを実感し、それを学ぶことができた。エネルギーに関する知識が増えた。」「環境、エネルギー関連のニュースに興味を持つようになりました。ありがとうございました。」「毎週視聴するビデオの内容について、学生の興味に合わせて選ばれてるのが凄いと感心しました。先生の細かい工夫を感じました。」</p> <p>今後も分かりやすい授業を心がけます。</p>
ゼミナール	須賀 由紀子	<p>様々な地域活動をともにしながら、充実したゼミの活動を進めることができたと思います。4年生のファイナルプロジェクトも、ぜひ、それぞれの方が、一番取り組みたいことを見つけ、粘り強く、やってほしいと思っています。引き続きのゼミ活動楽しみにしています。</p>